

Brooklyn DAC+の試聴(3)

—MQA-CD の試聴—

1. はじめに

前報(2)の販売店での試聴の後、Brooklyn DAC+を持ち帰って試聴を順次実施してきました。今回は、MQA-CD の試聴を行います。

2. Brooklyn DAC+の試聴方法

Brooklyn DAC+は多機能であることから、限られた借用期間の中で試聴内容を絞りこむ必要があります。

今回は、Brooklyn DAC+の機能の特徴である MQA-CD の試聴を行います。さらに引き続いてフォノイコとしての機能と DSD 音源の SDIF 入力についても試聴します。USB入力と通常の S/PDIF デジタル入力は、試聴会でも実施されていることから、時間があれば実施することとし、光入力とアナログ LINE 入力も時間があれば実施するにします。

MQA-CD の試聴は Brooklyn DAC+に MQA-CD の信号を出力するデジタルプレイヤーは、Marantz の SA11-S2 を準備し、そのデジタル出力を Brooklyn DAC+の S/PDIF デジタル入力端子 1 にデジタルケーブルで接続しました。

なお、デモ機ということで、マニュアルその他電源ケーブルも付属していませんでしたので、電源ケーブルはインフラノイズ社の[パワーリベラメンテ](#)を使用し、マニュアルはディーラーサイトからダウンロードして使用し、MYTEK DIGITAL 192-DSD と同様、[アリエナイザーPSI-1000](#)を Brooklyn DAC+の下に敷きました。

音源は、[ディスコグラフィ\(2018No.93\)](#)、[ディスコグラフィ\(2018No.94\)](#)、[ディスコグラフィ\(2018No.95\)](#)、[ディスコグラフィ\(2018No.96\)](#)で報告した MQA-CD 盤です。

3. Brooklyn DAC+の試聴結果

まず言えることは、マニュアル P16 の 9.メニュー画面の 9.1 操作方法の記述が分かりにくいことで、最初に 4つのボタンで設定するように書かれていますが、先にボリュームノブを回して必要な操作条件を探し出すことが必要で、それが出てきたら 4つのボタンの該当ボタンを押して条件を替える必要があります。この時、ボリュームノブを回して出てくる操作条件や 4つのボタンへの割り当ては、設定した入力に応じて変わるようで、これらの詳細手順が分からず、例えば、アテネーターの BYPASS (ボリューム無効) からアナログボリュームを有効にするのに苦労しまし

た。

なんとか、入力を S/PDIF1 にし、MQA のデコードを enable (有効) に設定して MQA の再生ができるようになり、MQA のデコードを disable (無効) の場合と音質の比較ができるようになりました。

次の音質向上を目的として、SA11-S2 に GPS-777 から 44.1KHz のクロックを入れてみました。なお、MQA 再生時の Brooklyn DAC+へのワードクロック入力の詳細が分かりませんので、ディーラーからの情報が得られてからにします。

さらに、Brooklyn DAC+の S/PDIF デジタル入力端子 1 の前に [DACU-500](#) を挿入してみました。



上段 : Brooklyn DAC+ 下段 : MYTEK DIGITAL 192-DSD (現行使用機)

MQA のデコードを enable (有効) にした場合と MQA のデコードを disable (無効) にした場合の違いははっきりとしており、傾向としては前報(2)で報告したとおりです。

SA11-S2 に GPS-777 から 44.1KHz のクロックを入れた効果は、SA11-S2 の場合、これまでの経験と同様、それほど大きな効果はなく、若干音の輪郭がはっきりする程度です。

さらに、Brooklyn DAC+の S/PDIF デジタル入力端子 1 の前に DACU-500 を挿入する効果は、若干音が柔らかくなります。

なお、Brooklyn DAC+のクロックは INT (内部クロック) となっており、内部クロックでクロックを打ち直しているのではないかと思います。なお、MQA 再生時に Brooklyn DAC+へのワードクロック入力が可能かどうかは分かりませんので、ディーラーに問い合わせるからにします。これら Brooklyn DAC+の SYNC のクロックの使い方の詳細も不明ですので、今回はこの条件に留めておきます。

なお、PCM 再生の場合は、9.2.18 PCM Filt Shpe (PCM Filter Shape) – デジタルフィルターの設定は、次の 7 つが選択可能ですが、FRMP になっていましたので替えていません。

- ・ **FRMP** - 急峻な遮断特性をもつ最小位相フィルター
- ・ **SRMP** - 緩やかな遮断特性をもつ最小位相フィルター
- ・ **FRLP** - 急峻な遮断特性をもつ線形位相フィルター
- ・ **SRLP** - 緩やかな遮断特性をもつ線形位相フィルター
- ・ **APDZ** - 急峻な遮断特性を持つ線形位相のアポダイジングフィルター
- ・ **HBRD** - 急峻な遮断特性を持つ最小位相のハイブリッドフィルター
- ・ **BRCK** - ブリックウォールフィルター

この場合、**MQA** 再生機能を有効にしている場合には、デジタルフィルターは強制的に最小位相フィルターに固定され、上記の設定は無効となるとの注意書きがあります。しかしながら、**FRMP** か、**SRMP** かの記述はありません。

4. まとめ

トランスポートの **Marantz SA11-S2** との組み合わせにおいて **Brooklyn DAC+** による **MQA-CD** の再生に対応できるようになりました。外部クロック入力その他音質の最適化はマニュアルやディーラーの事前情報から読み取れませんでしたので、実際に導入してじっくり取り組むべき問題となります。

以上